

# 2025年度 学校評価計画

京都教育大学附属特別支援学校

## 1. 教育目標

- (1) 生活意欲に富む、個性豊かな社会人を育成する

## 2. 教育計画（年度重点目標）

- (1) 個別の指導計画を活用し、小学部・中学部・高等部の一貫性・系統性を重視し、今及び将来の社会につながる教育課程を創造する。
- (2) 安全・安心で、ニーズに対応した学習環境づくりを行う
- (3) 家庭・地域との連携を深める
- (4) めざす教育の実践を推進する

## 3. 本校の特色

本校は、主障害が知的障害である児童生徒を対象とした特別支援学校である。児童生徒一人ひとりの自立と社会参加を目指す教育実践と、大学と連携をしながらより実践的な活動と研究及び、教員を目指す学生の指導を行っている。また、外部の方に対して、参観、教育相談、研修、施設利用等の支援も行っている。

自然豊かな敷地の教材を通して、子どもたちがのびのびと自発的に身体を動かすことができる場の設定や子どもたちがやりたいと思ったことを実現すること等、子ども自身の思いや考えを大切にしながら、発達年齢や生活年齢に応じた単元・題材を設定した教育課程を組み、授業を行っている。

## 4. 京都教育大学附属学校園の目的

教育の実験，実証並びに実習の機関として，本学に附属学校（幼稚園，小学校，中学校，義務教育学校，高等学校及び特別支援学校）を置く。（本学学則第56条）

本学附属学校は，児童，生徒又は幼児に対して，学校教育法に定めるところにより，教育又は保育を行なうとともに，本学における児童，生徒又は幼児の教育又は保育に関する研究に協力し，本学の計画に従い，学生の教育実習の実施に当ることを目的とする。（本学附属学校規程第2条）

## 5. 附属学校園の機能向上に関する取組

- (1) 教育研究活動の成果を公表する。
- (2) 大学と附属学校園とが連携した研究を実施する。
- (3) 総合教育臨床センター学びサポート室と連携する。
- (4) 業務改善及び教職員の働き方に関する取組を推進する。

## 6. 教育計画（年度重点目標）に関する具体的な取組

- (1) - 1 児童生徒の学習の成果を的確に捉え、学習内容や支援方法を検討し授業改善を行っていく。また、その成果を教育課程の編成につなげる。
- (2) - 1 ICT 機器を積極的に活用するため、教職員の ICT 機器についての学びを深める。
- (3) - 1 「かめっこクラブ」の畑の作物収穫等、場の提供等を通して子育て支援を継続し、藤城社会福祉協議会や藤城自治会連合との連携を深め、児童生徒が活動できる場を広げる。
- (4) - 1 今年度の研究テーマを通して府立・市立の支援学校との互いの連携を深め、教育実践につなげる。

## 7. 附属学校園の機能向上に関する具体的な取組

- (1) - 1 京都府・市教育委員会と協力しながら、研究発表会を開催する。
- (2) - 1 大学と附属学校園とが連携した同研究「教育研究改革・改善プロジェクト経費」に申請する。
- (3) - 1 総合教育臨床センター学びサポート室共同実践者を2名選出し、各附属学校園等の支援に参画する。
- (4) - 1 校務の効率化・情報化とともに、学校行事や教職員の役割分担を見直し、学校業務の適正化を図る。

## 8. 年間計画

年 月	内 容
令和7年3月	学校運営方針、重点教育目標等策定
令和7年4月	学校評価計画を大学へ報告
令和7年5月	学校評価計画を学校ホームページへ掲載 学校評議員候補者の確定、 運動会 （学校評議員参観）
令和7年6月	
令和7年7月	
令和7年8月	
令和7年9月	
令和7年10月	
令和7年11月	学校祭 （学校評議員参観）
令和7年12月	保護者アンケート実施
令和8年1月	生徒アンケート実施 学校関係者評価実施・自己評価実施
令和8年2月	研究発表会 参加者アンケート実施 学校評議員会実施
令和8年3月	学校評価結果及び改善策とりまとめ、 次年度の学校運営方針、重点教育目標等策定
令和8年4月	学校だよりにて学校評価結果及び改善策概要等を保護者へ周知
令和8年5月	学校評価結果及び改善策を大学へ報告 保護者説明会（PTA 総会）での教育活動報告
令和8年6月	学校評価結果を学校ホームページへ掲載